

故小松堅太郎教授略歴および著作目録

略 曆

明治二七年 一月二四日
大正 九年 四月
大正一四年一〇月
大正一五年 四月
昭和 七年 四月
昭和一八年 一月
昭和二一年 四月
昭和二五年 五月
昭和二六年一〇月
昭和三四年 五月三日

山形県に生る
明治大学法学部法律学科卒業
九州帝国大学法文学部助手
関西学院専門部文学部教授
関西学院大学法文学部教授
文部省民族研究所員
同志社大学文学部教授
法学博士の学位を受ける
同志社大学法学部教授兼同志社大学大学院教授
逝去

著作目録

著 書

社会学概論
社会学論考
社会構造の理論
知識社会学批判
社 会 学
民族と文化
新民族主義論
民族の理論
民族と世界史

昭和 三年・日本評論社
昭和 三年・巖松堂
昭和 七年・日本評論社
昭和 七年・大畑書店
昭和 九年・日本評論社
昭和一四年・理想社
昭和一五年・日本評論社
昭和一六年・日本評論社
昭和一八年・一条書房

民族

昭和二〇年・目黒書店

社会学新論

昭和二二年・関書院

マクス・ウェーエバア社会科学方法論

昭和二三年・関書院

社会科学概論

昭和二四年・関書院

国家学

昭和二四年・関書院

社会学講義

昭和二六年・理想社

社会変動論

昭和二八年・有斐閣

論文

心的相互作用と社会の本質

ギディングスの観たる社会発達の方向

社会学の立脚地

社会の文化と拡大

社会威圧力の衰耗

社会の結合と心理相互作用

社会構成の因子の発生に就いて

部分社会としての国家

発達諸段階に於ける社会の全体性

人類社会の形態

利益的社会関係に就いて

意欲と社会的関係

共同社会的関係と利益社会的関係との限界並びに複合

社会関係の根本に関する二三の問題

上下関係論

社会関係を論ず

国民経済雑誌三三卷四一五号・大正一一年

国民経済雑誌三四卷四号・大正一二年

法律及政治一卷五号・大正一二年

法律及政治二卷一〇号・大正一二年

社会学雑誌二号・大正一三年

社会学雑誌四号・大正一三年

法律及政治三卷三〇四号・大正一三年

思想五卷二七号・二八号・大正一三年

社会科学一卷五号・大正一四年

社会学雑誌一〇号・大正一四年

社会学雑誌一二号・大正一四年

社会学雑誌一七号・大正一四年

社会科学二卷四一五号・大正一五年

社会学雑誌二三号・大正一五年

思想一〇卷五五号・大正一五年

社会学雑誌三卷二七号・大正一五年

社会学的研究に於ける図式的方法と純型的方法
 相互作用に関する諸問題
 相互期待としての社会関係
 社会学概論
 社会学的根本概念(マクス・ウエバー)
 著者よりの言葉
 社会学と社会学の限界
 国家の本質
 社会学的根本範疇としての他我の認識
 共益社会の理念
 原始社会に於ける共発関係の決定力
 知識社会学批判
 戸坂氏「イデオロギー概論」
 客観的真理と実践
 科学の階級性と真理の妥当性
 戸坂氏「イデオロギー概論」の批評について
 科学の階級性と世界観
 現代日本社会改造思想の批判
 民族、階級、戦争及び文化
 社会変動の過程
 社会発展の原理
 民族発展の三段階
 革命の研究
 知識の起源に関する課題

社会学雑誌三卷三四号・昭和二年
 商学評論五卷四号・六卷一号・昭和二年
 商学評論六卷一号・昭和二年
 社会体系・昭和二年
 社会学徒二卷五号・六号・七号・昭和三年
 社会学徒二卷一二号・昭和三年
 甲東学苑創刊号・昭和四年
 甲東学苑第二号・昭和四年
 思想九九号・昭和五年
 思想一九号・昭和五年
 思想一一〇号・昭和六年
 理想三一号・昭和七年
 理想三七号・昭和七年
 年報社会学第一輯・昭和八年
 年報社会学第一輯・昭和八年
 理想三八号・昭和八年
 理想一五〇号・一五一号・昭和九年
 理想四七号・昭和九年
 年報社会学第三輯・昭和一〇年
 関西学院大学「法文学部研究年誌」第一輯・昭和一〇年
 理想五六号・昭和一〇年
 年報社会学第四輯・昭和一一年
 関西学院大学「法文学部研究年誌」第二輯・昭和一一年
 関西学院大学「法文学部研究年誌」第二輯・昭和一一年

民族の全体性と部分性

最近のドイツ社会科学

社会変動理論に於ける諸問題

文化成立の諸条件

民族主義と知性の要求

風土と民族

欧州に於ける自由主義の将来

民族発展の限界

民族と国防国家

世界新秩序と民族主義

世界史における民族の役割

大東亜民族の形成原理

東亜民族の世界的使命

民族の本質

唯物史観の理想型的構造

社会的存在と宗教形態

国家形態の変動法則について

人種と人格

——政治社会学の一断面——

政治と神話

民本主義論議

民族と階級

世界政治とマキャベリズム

民主主義的計畫化と自由

——政治社会学の一課題——

理想六七号・昭和十一年

理想七一号・昭和十二年

理想七八号・昭和十二年

年報社会学第五輯(春季号)・昭和十三年

理想九七号・昭和十四年

理想一〇一号・昭和十四年

思想二一五号・昭和十五年

年報社会学第八輯・昭和十六年

理想一一八号・昭和十六年

理想一二五号・昭和十六年

理想一三八号・昭和十七年

国際経済研究一〇号・昭和十七年

日本評論二月号・昭和十七年

理想一四四号・昭和十八年

社会科学評論四輯・昭和二十四年

社会学評論三・四輯・昭和二五・二六年

アカデミア二号・昭和二十七年

同志社法学一二号・昭和二十七年

同志社法学一四号・昭和二十七年

同志社法学一四号・昭和二十七年

同志社法学一五号・昭和二十七年

同志社法学一七号・昭和二十八年

同志社法学一八号・昭和二十八年

独裁政治の基本問題

同 (承前)

自由考

多元的国家論とマルキシズム

——ラスキの学説を通して——

プロレタリアートと民族

政治の本質

計畫化と自由再論

社会の層化現象の本質構造

現実の世界政治

帝国主義の本質

圧力政治論

——圧力集団の院外運動——

民主社会主義の行動原理 (一)

文化の形成

——その一般的考察——

政党の指導者

——民主主義逆転の法則——

政党の指導者 (続)

Irresponsible Politics

政党の組織

——デューヴェルジエの見解を通して——

政党の組織 (つづき)

代議政治の将来について

政治論叢

同志社法学一九号・昭和二八年

同志社法学二〇号・昭和二八年

同志社法学二一号・昭和二八年

同志社法学二二号・昭和二八年

高田保馬先生古稀祝賀論文集・昭和二九年

同志社法学二三号・昭和二九年

同志社法学二四号・昭和二九年

同志社法学二六号・昭和二九年

同志社法学二八号・昭和二九年

同志社法学二九号・昭和三〇年

同志社法学三〇号・昭和三〇年

同志社法学三一号・昭和三〇年

同志社法学三二号・昭和三〇年

同志社法学三五号・昭和三一年

同志社法学三六号・昭和三一年

Doshisha Law Review No. 1・昭和三一年

同志社法学三七号・昭和三一年

同志社法学三八号・昭和三一年

同志社法学三九号・昭和三一年

同志社法学四〇号・昭和三一年

- 政党の諸制度(一)
政党の諸制度(二)
大衆と政治(一)
大衆と政治(二)
大衆と政治(三)
政党の構成員
——デュヴェルジェ説を介して——
政党の構成員(承前)
——デュヴェルジェ説を介して——
階級と政党(一)
階級と政党(二)
中間階級と諸政党
階級と政党(三)
二つの政治学書
階級と政党(四)
近代官僚制の本質
国家学
階級と政党(五・完)
- 同志社法学四一号・昭和三三年
同志社法学四二号・昭和三三年
同志社法学四三号・昭和三三年
同志社法学四四号・昭和三三年
同志社法学四五号・昭和三三年
同志社法学四六号・昭和三三年
同志社法学四七号・昭和三三年
同志社法学四八号・昭和三三年
同志社法学四九号・昭和三三年
同志社法学五〇号・昭和三三年
同志社法学五一号・昭和三四年
同志社法学五二号・昭和三四年
同志社法学五三号・昭和三四年
同志社法学五四号・昭和三四年
同志社法学五五号・昭和三四年
同志社法学五六号・昭和三五年